

年報 独立行政法人 国立博物館
平成15年度

N
O
O
W

平成15年度 年報 目次

I	15年度事業実績報告	
	【法人全体】	1
	【東京国立博物館】	
	1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	17
	2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置	20
	(1) 収集・保管	20
	(2) 公衆への観覧	26
	(3) 調査研究	48
	(4) 教育普及	67
	(5) 国際交流	86
	(6) その他の入館者サービス	100
	【京都国立博物館】	
	1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	103
	2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置	105
	(1) 収集・保管	105
	(2) 公衆への観覧	110
	(3) 調査研究	119
	(4) 教育普及	121
	(5) 国際交流	132
	(6) その他の入館者サービス	138
	【奈良国立博物館】	
	1 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	141
	2 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置	144
	(1) 収集・保管	144
	(2) 公衆への観覧	149
	(3) 調査研究	159
	(4) 教育普及	164
	(5) 国際交流	179
	(6) その他の入館者サービス	188
	【九州国立博物館（仮称）設立準備室】	
	1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置	191
	(1) 新たな博物館の運営に向けた取り組み	191
II	施設概要	200
III	財務諸表	203
IV	評価	
	1 文部科学省独立行政法人評価委員会評価	224
	2 独立行政法人国立博物館外部評価委員会評価	258
V	日誌	265
VI	運営委員・評議員、外部評価委員名簿及び組織図、役職員名簿	271
	附属資料：事業実績統計表	291

I 事業実績報告

【法人全体】

1. 運営

○方針

各館の特徴を十分活かした事業の実施とお客様へのサービスを充実することにより、お客様に“何度でも足を運んでみたい”とあっていただける「国民に親しまれる博物館」になること及びトップマネジメントによる“一体的で効率的かつ効果的な法人運営”を行うことを目標にして、その実現のために、以下の6点を平成15年度の重点事項とした。

1. 国民のニーズに的確に対応できる博物館になるための博物館の組織と運営体制の整備
2. 各館の特色を生かした魅力ある展覧会の開催
3. 文化財の適切な保管
4. 危機管理への対応
5. 国際化への対応（政府の観光立国政策への対応を含む）
6. 博物館資源の有効活用とお客様へのサービスの充実

○実績

国立博物館を運営するに当たっての理事長等のトップマネジメント

＜理事長のトップマネジメントとトップマネジメントを支える体制の確立＞

法人の運営上の諸課題への対応方針の決定などのマネジメントは、役員会における議論を踏まえて、理事長が行っている。

なお、決定に当たっては、「独立行政法人評価委員会」「国立博物館運営委員会」「国立博物館外部評価委員会」の評価・提言を十分検討するとともに、方針決定後、迅速に実行するように留意した。

また、各館の特色を十分踏まえて実施する必要がある事項は、法人本部が主催する「国立博物館連絡協議会」や課題別のプロジェクトチームで十分協議して、問題点の整理を行い、役員会に報告している。

15年度から、一体的で効率的かつ効果的な法人運営を強化するため、法人としての横断的な業務について、3人の理事が以下のように役割分担をし、理事長が総括している。

＜理事の役割分担＞

興膳理事	情報、広報、文化財活用の方針、博物館の国際化対応
鷲塚理事	文化財の収集・保存の方針、危機管理、 法人が行うプロジェクト（調査研究、展覧会等）
西岡理事	研究職の人事、特別展など展覧会開催計画の調整

（参考）

役員会の構成：理事長、理事3人、九州国立博物館（仮称）設立準備室長
監事は、役員会に出席し、運営面について意見を述べた。

平成15年度の重点事項ごとの状況

1. 国民のニーズに的確に対応できる博物館になるための博物館の組織と運営体制の整備

○組織改革

<法人本部>

人事業務を法人本部に一元化するとともに、法人本部の企画機能を強化した。

<東京国立博物館>

快適な環境の中で選びぬかれた文化財に親しむことができ、国民の誇りとなるような博物館となるために、大幅な組織改正を行った。

[改革内容の骨子]

- ① 調査研究での中心的な役割を果すポストとして「上席研究員」を設けた。
- ② 「企画部」「学芸部」を「事業部」「文化財部」に改め、文化財の<分野別>の縦割り組織から、展示、保存修復など館の業務に沿った<機能別>の横断的組織とした。
- ③ 地域・企業との連携を円滑に行い、お客様へのサービスの向上を図るため「総務部」に「渉外課」を新設した。

(参考) 組織改正の趣旨

- ① 研究職員が担っている特別展・平常展・作品の貸借・特別観覧・修理計画などの多岐にわたる業務を大きく2分する方向で「企画部」「学芸部」を再編し、特別展・教育普及・情報関連・広報を中心にした「事業部」(事業部門)と、博物館が保管する文化財の管理・平常展・保存修復を担当する「文化財部」(文化財管理部門)の2つの部に分ける。
- ② 上記の再編にともない、「学芸部」の課室制を見直し、従来文化財の分野をベースにした組織から、文化財の管理・平常展・保存修復の業務の内容に即したものとする。
- ③ 各研究職員の研究分野を明示するとともに、文化財部に調査研究活動のとりまとめ責任者として「上席研究員」を複数配置する。
- ④ 「総務部」に、館全体に関わる来館者サービスの実施、イベントや地域との連携事業の実施、友の会や賛助会員の開拓、維持に関して組織的に対応できるように、お客様サービス、事業開発などを担当するセクションとして「渉外課」を設置する。
- ⑤ 館全体の広報体制の強化を図るため、「事業部」に「広報室」を置く。
- ⑥ 各部課の所掌に横断的に関わるものについては、関係部課の連携を図ることが極めて重要であることから、協力関係を更に緊密にするとともに、関係者(必要に応じて外部者を加える)からなる館内の委員会を整備する。

<京都国立博物館・奈良国立博物館>

京都国立博物館と奈良国立博物館では、16年度に向けて組織改革の具体的な検討を行った。

○運営体制の改革

<人事> (採用・人事交流)

- ① 研究職の採用方法の変更：各博物館独自の採用を法人本部で一括採用する方式に変更し、優秀な人材の確保に努めた。
- ② 人事交流の推進：今後法人内の人事交流を積極的に行うことができるように、16年度の人事計画を策定した。
- ③ 人事戦略の検討：採用や人事交流の在り方について、各博物館と法人本部で協議を重ねながら、中長期的な観点から現状の問題点や課題を整理した。

<職員研修>

- ① 新規採用職員の研修や各館に共通する重要課題へ取り組んでいくために必要な研修を法人本部主催で行った。

② 各館に共通する重要課題に関する研修テーマとして取り上げたものは、「危機管理」「文化財の生物被害防除」「美術品の梱包」「接遇」「博物館のブランド戦略」である。

2. 各館の特色を生かした魅力ある展覧会の開催

魅力ある特別展・共催展を開催するとともに、とりわけ、平常展の充実に取り組んだ。

<国立博物館としての方針>

各館の収蔵品及び寄託品を十分活用すること、最新の調査研究成果に基づいた内容にすることを基本方針にして、平常展を充実させる。

<東京国立博物館>

15年度に新設した「文化財部・展示課」を中心に、平常展の充実に取り組んだ。重点事項としたことは、本館2階の平常展を「日本美術の流れ」というコンセプトで、「分野別」から「時代順」の陳列にリニューアルしたことである。この他に、江戸開府400年記念事業の「特集陳列」を年間通して行うなど、お客様のニーズに応える展示を行った。

<京都国立博物館>

新規収集品の公開や時機に合わせた特別陳列（新選組など）を企画した。

<奈良国立博物館>

新規収集品の公開や時機に合わせた特別陳列（お水取りなど）を企画した。

<国立博物館相互の連携協力による展覧会の充実>

独立行政法人化後、特別展の開催に当たっては、各館がお互いに連携・協力（作品選定や図録の執筆など）するように心がけている。

- ・東京と奈良の連携 「インド・マトゥラー彫刻展」「パキスタン・ガンダーラ展」
- ・東京と京都の連携 「亀山法皇700年御記念 南禅寺展」「空海と高野山展」

3. 文化財の適切な保管

- ① 文化財を適切な環境の下で保管するために、法人本部と各館のメンバーで構成されるプロジェクトチーム（「保存環境検討会」（旧名称「空調に関する打合せ」））を作り、環境条件に関する基礎データの広範な収集や分析など、保管環境を整備するための検討を行った。
- ② 「独立行政法人評価委員会」から問題提起がされている24時間空調の実施について、その実施条件を検討した結果、現在の老朽化した施設整備の改修と人員の整備、膨大なランニングコストが必要で、現状では実現することは困難であることがわかった。このため、機密性や調湿性を高めるなどの機械制御に対する補助機能を強化する方向で、各館の実態に応じた改善策を検討した。
- ③ 今後も引き続き、効果的で、しかも低コストに運営できる保管環境の設定について検討を続け、24時間空調に近い効果を得るための工夫を行っていく予定である。

4. 危機管理への対応

文化財やお客様が災害や事故に見舞われた場合に適切に対応できるよう、法人本部と各館のメンバーで構成されるプロジェクトチーム（「危機管理検討会」）を作り、現状の問題点と課題を整理し、今後の対応を協議した。

また、各館では、以下のような対応を行った。

<東京国立博物館>

- ① 従来からある「東京国立博物館防災マニュアル」（主として地震、火災対応）を改訂した。
 - ② 15年度開催の特別展「煌きのダイヤモンド展」において、展示品の盗難や混雑による事故を想定した各種の取組みを実施した。盗難を想定して、警備体制を強化し、盗難の予防と発生時の対応マニュアルを作成した。マニュアルの作成に当たっては、警察署の指導を受けた。
- また、16年4月開催予定の「空海と高野山展」に向けて15年度中に警備及び混雑対策のシ

ミュレーションを行った。展覧会やイベント毎に、関係者が集まって、事前に対応策を確認する習慣が定着し、上記の試みを通して得た知見を基礎に、今後、危機管理マニュアルを整備していく予定である。

<京都国立博物館>

16年3月に人身事故、防災、文化財管理、衛生管理を内容とする「危機管理マニュアル」を作成した。

<奈良国立博物館>

16年3月に救急、防災、文化財管理、衛生管理、交通事故等への対応を内容とする「危機管理マニュアル」を作成した。

5. 国際化への対応（政府の観光立国政策への対応を含む）

政府の観光立国政策を踏まえながら、外国人のお客様に親しまれる博物館となるため、外国語バージョンの博物館の案内や展示品の解説を充実するとともに、外国からのお客様向けの広報の充実を図った。

また、「国立博物館外部評価委員会」の提言を踏まえ、3館共通の事業として、新たに「留学生の日」を設け、日本で学ぶ留学生に平常展の無料観覧、展示解説、お茶会など、日本の伝統文化に親しむ機会を提供した。

○海外交流展の推進

日本文化を海外へ発信する展覧会を積極的に開催し、海外から高い評価を得た。

<東京国立博物館>

ドイツ（ボン）で「日本の美 日本心」展、中国（上海）で「西川寧書法芸術院展」を開催。

<奈良国立博物館>

米国（ニューヨーク）で「日韓初期仏教美術展」、韓国（慶州）「日本の仏教美術」を開催。

6. 博物館資源の有効活用と観覧者サービスの充実

博物館の施設（建物、お庭）を有効に活用し、博物館のお客様に展示場以外の空間でも、博物館らしい雰囲気の下でゆったりとした気分で楽しんでいただくように心がけた。

また、館の施設を使用してコンサートなどのイベントを開催するとともに、一般（企業等）に有料で貸し出して収入を得た。

<東京国立博物館>

① 都心とは思えないほど緑が豊富で、5つの由緒あるお茶室があるお庭を、紅葉と桜の時期に公開することにした。また、15年10月から、重要文化財に指定されている本館、表慶館、黒門を夜間にライトアップしている。黒門は、土日・祝日には、開門し、お客様が通り抜けることができるようにした。

② 館内の施設で、コンサート、演劇、落語など多様なジャンルのイベントを主催し、博物館が親しみのある空間になるように努めた。

③ 企業のイベントや国際会議の会場として施設を有料で提供し、企業人や外国からのお客様など、従来国立博物館に足を運ぶ機会の少なかった層へ、博物館の魅力を周知するとともに収入を確保した。

<京都国立博物館>

お茶室などの施設の有料貸出しを行った。

<奈良国立博物館>

正倉院展等の特別展関連行事として行っているイベントの数を増やし、お客様へのサービスに努めた。

○自己点検評価

【理事長のトップマネジメント】

理事長の運営方針を、職員には役員会等の会議や職員研修の場で周知し、徹底した。

また、法人本部のホームページ（法人本部のHP「理事長の思い・想い・念い」）などで、広く周知した。

<理事長の指示>

14年度の運営方針として掲げた「国民のニーズに配慮した事業の展開」「国立博物館に親しむ制度・企画」「効率化の推進体制及び運営基盤の確立」は、独立行政法人2年目としてその端緒を築くことができたものと考えている。

15年度は、これらの方針を継続し、6つの重点項目を決定し、以下の点について留意して取り組むように指示した。

- ① 各セクションの協力体制を確立させるための組織改革
- ② 博物館の基盤である調査研究の強化
- ③ 博物館の本来の役割である平常展にこそお客様が来てくださるよう活性化を図ること。

【役員会と外部の方々への意見聴取】

役員会は5回開催した。

また、「国立博物館運営委員会」「国立博物館外部評価委員会」は、各2回開催した。

監事による監査、「国立博物館運営委員」「国立博物館外部評価委員」の提言内容を真摯に受けとめて、博物館の運営に反映させた。

【評価】

15年度の運営方針として、理事長が掲げた「国民のニーズに的確に対応できる博物館になるための博物館の組織と運営体制の整備」「各館の特色を生かした魅力ある展覧会の開催」「文化財の適切な保管」「危機管理への対応」「国際化への対応（政府の観光立国政策への対応）」「博物館資源の有効活用とお客様へのサービスの充実」は、課題は残っているが、実績欄に記述したとおり多くの点で前進した。

(5) 国際交流

① 展覧会

「アレクサンドロス大王と東西文明の交流展」(共催展)

○方 針

マケドニアのアレクサンドロス大王の東征(前334～前323年)を契機とする、ギリシャ美術の東方への伝播とヘレニズム文明の成立、そしてシルクロード経由による同文明の極東への影響を、現在まで伝わる美術作品により、図像学的に明らかにする。



○実 績

- 1) 開会期間 15年 8月5日～10月5日(57日間)
- 2) 会 場 平成館2階 特別展示室第1室～第4室
- 3) 主 催 東京国立博物館・NHK・NHKプロモーション・読売新聞社
特別協賛 キヤノン・大日本印刷
協 賛 清水建設・三井住友海上
- 4) 陳列品総件数 172件(うち重要文化財6件)
- 5) 入館者数 23万4,645人(目標13万人)
- 6) 入場料金 大人1,300円 高校・大学生900円 小・中学生400円
- 7) 担当した研究員数 4人(うち ゲストキュレーター2人)
- 8) 展覧会の内容

世界有数の美術館、博物館、日本の寺院・個人等が所蔵する名品170件余りを一堂に集め、東西の古代文明が融合を重ねる様を概観し、その余波がシルクロードを経て遥か東方の日本まで到達したことを示した。

- 9) 講演会等(開催期間 場所 参加者数 講師等)

① ボッティチェリと俵屋宗達との間～ギリシャの風神の東漸から(記念講演会)
(8月9日 平成館大講堂 290人 中央大学教授 田辺勝美氏)

② 「アレクサンドロス大王と香料の路」(記念講演会)(9月6日 平成館大講堂 354人 上席研究員 後藤健)

- 10) 広報

ターゲット: 広く一般の美術愛好家、小・中学生

重点項目: 小・中学生への周知。

共催者NHKの放送媒体による周知広報活動。

特記事項: スタンプラリーつきこども向けちらしを作成するなど、同時開催の「こどもミュージアム」ならびにこども向けイベントと連動させた広報活動を展開。

共催者NHKの放送媒体により特別番組をシリーズで複数回放送。より広く一般に展覧会のテーマと内容、出品作品について周知をはかった。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・ちらし・DM送付	約7,600件（全国博物館・美術館・学校・ホール・大使館等）
交通広告	車内広告（JR、営団ほか） 駅貼り広告（JR、京王ほか計70駅） PR電飾板：東京、大手町、JR新宿、営団丸の内新宿、渋谷
新聞広告	共催社（読売新聞）紙上での掲載9件（うち特集記事1件、連載5件）、朝日
テレビ	共催社（NHK）での特集番組8本、ミニ番組、スポット25本
雑誌	共催社（読売新聞）刊行雑誌での掲載4件
駅横断幕	上野駅公園口
博物館ニュース	誌上予告1回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイト（ホームページ）での紹介、メールサービスでの情報配信、共催社（NHK・読売新聞）ホームページ上での紹介

② パブリシティ情報掲載・放映

新聞 92件、雑誌 113件、テレビ 13本

- ③ 記者発表会等 記者発表会 4月17日（日本外国特派員協会にて 39社48人出席）
報道内見会 8月4日（65媒体104人出席）

11) アンケート調査

- ① 実施方法 入館者の任意記入回答形式（会期中に記入場所を会場出口に設置）
② 回収数／結果 5,841件／ とても良い40.9%（2,389件）、良い39.1%（2,283件）、ふつう10.3%（602件）、あまり良くない2.7%（157件）、良くない2.6%（152件）、無回答4.4%（258件）

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・本展では、ヘレニズム美術の東漸というテーマを、欧米・日本の美術館・博物館・寺社・個人が所蔵する質的に高い美術作品多数の展示によって跡付けることができた。「ギリシャから日本へ」というキャッチコピーに示されるように、地中海から日本に至るユーラシア大陸横断の文明の道という壮大な構想は、未曾有のものであり、仏教美術の新たな解釈を提起したことが大きな特色である。入館者のアンケートでも、東西文明の交流に関し、「理解が一段と深まった」とする内容の回答を多数得ることができた。
- ・また、本展では、田辺勝美氏（中央大学総合政策学部教授）と前田たつひこ氏（シルクロード研究所学芸部長）の2人の外部研究者をゲストキュレーターとして招き、効果的な指導助言の下、専門的情報等を積極的に活用しながら、これまでにないような斬新で水準の高い内容を組み立てていくことができた。
- ・共催者（NHK）が展覧会テーマに連動した特別番組（NHKスペシャル「文明の道」）を制作・放映したことが入館者数の増加につながった。
- ・ゲストキュレーターとともに、イラストを用いるなどキャプション解説の平易化に努め、アンケート調査においても「解説がわかりやすい」という意見が回答者の40.1%を占めた。

【見直し又は改善を要する点】

- ・妙法院所蔵の風神像を借用した際、左腕が脱落するという重大な事故を招いた。原因を精査するとともに、文化財の梱包や取扱いについて、改めて研修等を実施し、今後の指針とした。16年度以降も文化財の取扱い等についての研修等を継続し、事故の再発防止を図る。
- ・また、本展では、ギリシャをはじめ、数多くの外国の機関から多数の文化財を借用したが、事前の連絡調整に難航を見た点もあった。今後は、特に外国との事前調整を更に綿密に行うこととする。
- ・「トルコ文明展」との2館共通券を実施し6万5,521枚売り上げるなど好評であった。しかし、それに際して制作した共通チラシは、トルコ・ギリシャ両国の国際情勢・関係を考慮し、会期前に配布を中止した。

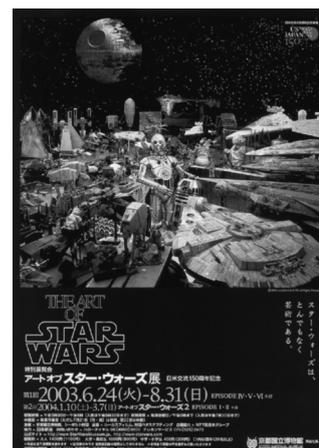
(5) 国際交流

① 展覧会

「アート オブ スター・ウォーズ」展（共催展）

○方 針

圧倒的な数の中・高年齢層の支持によって存立している京都国立博物館にとって、若年層の掘り起しが急務となっている。映画「スター・ウォーズ」はアメリカ映画でありながら、映画を含む日本文化の強い影響を受けており、日本文化の底力を一般に知らしめるとともに若年層の開拓に寄与することを目標とする。



○実 績

- 1) 開会期間 15年6月24日～8月31日
- 2) 会 場 特別展示館
- 3) 主 催 京都国立博物館、シーボルト財団
企 画 ルーカスフィルム、財団ハタステフティング
企画協力 NTT西日本グループ
協 力 日本航空
- 4) 陳列品総件数 218件
- 5) 入館者数 12万0,682人（目標 4万人）
- 6) 入場料金 大人1,400円（1,100円）、大・高生1,000円（600円）、中・小学生400円（200円） *
（ ）内は、団体
- 7) 担当した研究員数 2人
- 8) 展覧会の内容 実際に映画の撮影で使用された模型、スケッチ、マット・ペインティング、衣裳など、エピソードIV・V・VIで用いられた内から200点以上を厳選して展示
- 9) 講演会等
シンポジウム 6月24日
「ILMの特撮技術—当時の技術と現在、ハリウッド映画への影響」
ILM所属 模型修復担当 ローレン・ピーターソン
「スター・ウォーズの歴史—俳優の立場からみたエピソード4から製作中のエピソード3まで」
スター・ウォーズ全作品に出演しているC-3PO俳優
アンソニー・ダニエス
「エピソード1・2に関わり、エピソード3でスター・ウォーズはどのように完結していくか」
ルーカスフィルム所属 スペシャルプロジェクト担当
キャサリン・ホリデー
- 10) 広報 ・記者発表：6月23日
・京都国立博物館だより（139号）、KYOTO NATIONAL MUSEUM NEWS LETTER（vol.79）、催事案内及びホームページでの予告・紹介
・看板：敷地内6箇所以上、京都駅前等に設置
・ポスター：報道関係者、美術館・博物館、ホール、ギャラリー、大学、高等学校、中学校、専門学校、教育関係者、図書館、社寺、観光業者、古美術商、ホテル等に配布

また、京阪電気鉄道株式会社などの鉄道各社の構内・車内等にて掲出

- ・チラシ：報道関係者、美術館・博物館、ホール、ギャラリー、大学、高等学校、中学校、専門学校、教育関係者、図書館、社寺、観光業者、古美術商、ホテル等に配布
また、JR西日本、JR東海、京阪電気鉄道、阪急電鉄、近鉄電車の構内・車内等にて掲出
- ・海外・外国人対象：伝統芸能紹介冊子「MEET OSAKA」への展覧会情報掲載、英字新聞社・英字週刊誌への情報提供、外国人観光客向け冊子「KYOTO VISITORS GUIDE」等への展覧会情報掲載
- ・新聞：朝日・毎日・産経・読売・京都新聞社等で紹介、とくに朝日新聞上に全面広告・帯広告を掲出
- ・テレビ・ラジオ：NHK、KBS京都、京都チャンネル等のテレビにて紹介。FM京都等地域のラジオ放送にて紹介
- ・雑誌等：多数の一般誌、各会報誌、ミニコミ誌、タウン誌、ホームページ等にて紹介

11) アンケート調査

- ① 調査期間 15年6月24日～8月31日
- ② 調査方法 記入式
- ③ アンケート回収数 7,971件
- ④ アンケート結果 ・良い 93% (7,390件) ・普通 4% (308件) ・悪い 3% (203件)

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・本展は新聞社・テレビ局などマス・メディアとの共催の形をとっていない。欧米ではむしろ一般的ではあるが、日本では珍しい試みといえる。
- ・現代映画分野の専門家を委嘱し、企画にあたっての意見及び図録解説等のチェック・助言等について協力を得た。
- ・当館は、京都文化を中心に展覧会を開催してきたが、普段博物館に訪れない学生など若年層に親んでもらう目的から映画で人気の高い「スター・ウォーズ」に着眼し、当館自ら取り組み芸術作品として展示できることを確信し自前の展覧会とすることにした。
とりわけ、ジョージ・ルーカス監督の「日本映画の発祥地である京都で展示したい」との申し出がきっかけとなり、展示スペースの広さなどから当館で開催する運びとなった。
- ・30代以下の来館者が81%という、これまでにない若年層の掘り起しという所期の目的は十分に達せられた。
- ・京都国立博物館を初めて訪れたという人が多数（アンケート意見欄に通常より多く記述）にのぼったことも喜ぶべきであろう。

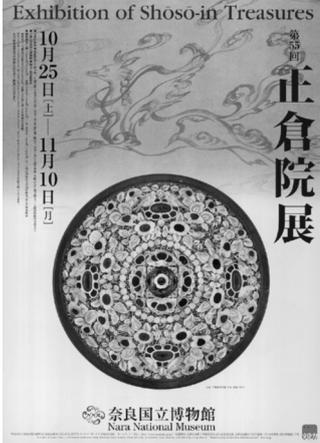
【見直し又は改善を要する点】

- ・若年層の掘り起しは成功したが、女性が少なかった。女性にも関心をもってもらえるように努めた。

「第55回正倉院展」(特別展)

○方 針

昭和21年から開始され、国民的行事として定着している恒例の正倉院展は、正倉院宝庫の宝物点検の際に宮内庁から例年約七十件の貸与を受け、当館にて公開展示するものであり、本年度で55回目を数える。奈良時代の優れた文化財を鑑賞するまたとない機会として例年多数の入館者があり、その中には固定的ファンも多く、奈良朝文化に一定の知識を有する研究者に対しても十分な満足感を与える展示を目指す。特に今回は、最近の新しい調査結果を反映させる内容となるように配慮している。



○実 績

1) 開会期間	15年10月25日～11月10日
2) 会 場	東・西新館
3) 主 催	奈良国立博物館
協 力	朝日新聞社
4) 陳列品総件数	66件 (うち初公開 7件)
5) 入館者数	14万3,904人 (目標120,000人)
6) 入場料金	大人1,000円 (900円) 高校・大学生700円 (600円) 小・中学生400円 (300円) () 内は20人以上の団体料金、及び前売り料金
7) 担当した研究員数	13人
8) 展覧会の内容	聖武天皇と光明皇后が身辺に置かれた品々をはじめ、東大寺で用いられた仏具や献物几・献物箱、奈良時代の衣装や佩飾品、薬物と顔料、文書類など、正倉院宝物の主要なジャンルが出陳されたが、今回は特に刺繍が施された作品や、佩飾品、薬物と顔料及びその関連品がまとめて出陳され、最近の調査研究の成果を反映した展示となった。
9) 講演会等	公開講座 10月25日(土) 鏡と鏡箱 工芸室長 内藤 栄 11月3日(月) 正倉院文様の転写技法について 宮内庁正倉院事務所整理室長 西川 明彦 11月8日(日) 正倉院の刺繍 関西学院大学教授 河上 繁樹
10) 広 報	・報道発表 7月18日(金) ・奈良国立博物館だより(第47号)及び当館ホームページでの予告・紹介 共催者(朝日新聞社)ホームページでも特集ページの掲載 ・看板(敷地内10箇所及びバナー広告、近鉄奈良駅構内2箇所) ・ポスター 近鉄全線(駅貼、車内吊り)、JR西日本(駅貼、車内吊り)、JR

- 東海（駅貼）、美術館・博物館、大学、図書館、社寺、観光業者、ホテル、教育委員会等
- ・ ちらし 近鉄、JR西日本、美術館・博物館、大学、図書館、社寺、観光業者、地元バス会社・ホテル・旅館、教育委員会等
- ・ 外国人向け伝統芸能紹介冊子「MEET OSAKA」への展覧会情報掲載
- ・ 新聞社 朝日新聞社(社告、特集記事、宝物紹介、関連行事ほか)、朝日新聞社関連刊行物、読売、毎日、産経、奈良、奈良日日ほか
- ・ テレビ・ラジオでの紹介
- ・ 奈良市観光協会発行季刊誌「大和の四季彩」への掲載
- ・ 『和楽』（小学館）での特集記事

11) アンケート調査

- ① 調査期間 15年10月25日～11月10日
- ② 調査方法 会場内にアンケートコーナーを設け、観覧者が自由に記入。
- ③ アンケート回収数 1,143件
- ④ アンケート結果 ・良い82% (934件) ・普通10% (120件) ・悪い5% (57件) ・無回答3% (32件)

12. その他

- ・ 会期中、解説ボランティアによる作品解説を毎日実施したほか、有志によるイベント「天平ファッションに親しもう（奈良朝服飾の復元と入館者の試着）」を実施した。
- ・ お茶会、各種コンサート（『よみがえる天平の調べ』『バロック音楽の夕べ』（河合文化庁長官出演）（以上主催）『雅楽の夕べ』『雅楽体験講座』（以上協力））、「着物で正倉院展を見よう」など、特別展関連行事を倍増し、憩いの場と話題作りに努めた。
- ・ 小・中学生の観覧理解促進のため、一般の音声ガイドに加えて、子供向け音声ガイドを導入した。

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・ 例年ながら、初出陳の作品を加えて、リピーターにとっても新鮮味のあるより興味深い展示となった。
- ・ 多数の入館者があったが、展示順路の整理や、作品配置の間隔を広げる等の工夫をした結果、会場に混乱はなく、整然と場内整理ができた。
- ・ 朝日新聞社の広報協力を得て、広報の徹底を図ることができた。（朝日新聞『天声人語』・10月27日ほか）

【見直し又は改善を要する点】

- ・ 毎年恒例の展覧会でありリピーターが多いが、若年層など新たな入館者層を獲得する工夫が必要である。
- ・ テレビ等のマスコミの協力を継続して働きかける。

「はじめの一步」九州国立博物館（仮称）2005年度開館への序章

○方 針

- ・開館への序章としての初めての企画展は、親しみやすく「はじめの一步」展と題し、開館準備の状況を広く一般の方に知っていただくことを目的に、九州国立博物館（仮称）を多角的に紹介する。
- ・展示室は、東京国立博物館本館特別第3室・第4室を利用し、それぞれの展示室に特徴を持たせる。
- ・わずか40件の展示資料ではあるが、アジア史的観点から見た文化交流の歴史認識とその魅力を紹介するため、文化交流展示テーマの一端を披露する。



○実 績

- | | |
|-------------|---|
| 1) 開会期間 | 16年2月17日～16年3月28日 |
| 2) 会 場 | 東京国立博物館本館特別第3室・特別第4室 |
| 3) 主 催 | 九州国立博物館（仮称）設立準備室 |
| 4) 陳列品総件数 | 40件（うち重要文化財2件） |
| 5) 入館者数 | 1万9,527人 |
| 6) 入場料金 | 大人420円（210円） 大学生130円（70円）
（ ）内は、20人以上の団体料金 |
| 7) 担当した研究員数 | 8人 |
| 8) 展覧会の内容 | 開館準備状況を、①建物等の概要、②3つのテーマ展示、③修理事業による修理品の展示、④装飾古墳データベースのデモンストレーションから紹介する。 |
| 9) ギャラリートーク | 6回 |
| 10) 広 報 | ちらし、しおりを都内博物館、台東区商店街に配布。東京国立博物館ニュース、報道機関への発表及び資料提供等 |
| 11) アンケート調査 | 展示室内にアンケートコーナーを設け、観覧者が自由に記入。
但し、会期を前・中・後期に区分し、中・後期には調査員による口頭調査および調査内容の変更を実施。 |
| ①調査期間 | 16年2月17日～16年3月28日 |
| ②調査方法 | 会場内にアンケートコーナーを設け、観覧者が自由に記入。さらに「声のポスト」としてヴォイス・レコーダーを置き、音声で意見を聴取した。 |
| ③アンケート回収数 | 330件（第1期170件、第2期（口頭）55件、第3期105件） |
| ④アンケート結果 | ・良い58%（98件）・普通34%（57件）
・悪い8%（15件）（第1期分：計170件） |

○自己点検評価

【良かった点、特色ある点】

- ・小規模であったが、観覧者に分かりやすく見やすい展示を目指すため、作品の名称、展示解説ラベル（題せん）の書き方（テーマごとの色分け、関係地図の添付）、展示手法に工夫を凝らした試行的

な展示であった。

また、アンケートコーナーを展示室に設け、試行的な展示について観覧者の反応を知るため、アンケートの質問事項を、①総合的な意見を聞く、②詳細な部分について意見を聞くという形で前期、後期において変更し、調査員による口頭調査も実施した。

さらに、当館の知名度を上げるため、若年層に強い広報媒体を活用できた。

【見直し又は改善を要する点】

- ・展示担当者の実験的な試みに対する観覧者の感想を真摯に受け止め、より一層の解説ラベル等の工夫をする。